



僕たちが何者でもなかった頃の話をして（山中伸弥 羽生善治 是枝裕和 山極壽一 永田和宏）

あの山中教授も、初めから最後まで天才であり続けたわけではないのです。私たちも何者かになる途中なのかもしれませんね。

世界がわかる理系の名著（鎌田浩毅）

歴史を変えてしまうほどのインパクトを残した名著を簡潔に紹介してくれます。「本の著者について」「本の概要」「その後の世界の変化」が書かれているのでとても面白いですよ。

商（あきんど）人（永六輔）

古今東西、商売（ビジネス）の基礎は変わらないのだなぁと気付かされる一冊。デジタル化が進んでいく中、ちょっと足を緩めてを読んでみてはいかがでしょうか。

快樂主義の哲学（澁澤龍彦）

憧れるような真似したくないような…世の中のうわべだけの常識や綺麗事をバッサリ斬り捨てる。周囲との関係で疲れている人にオススメの心が軽くなる一冊です。

つなぐビール（ベアレン醸造所 眞田洋一）

真間にビール醸造所を作るぞ！と決意した際に、行徳の常夜灯Living のイヌヅカわんさんにももらいました。岩手県盛岡市にあるベアレン醸造所の成り立ちが書かれた本です。妻も盛岡市で学生時代を過ごした為、ベアレン醸造所がどれだけ盛岡市に愛されているかを知りました。「まるやブルワリーもこうなりたい」と教科書にしています。

麦酒伝来 森鷗外とドイツビール（村上満）

こちら某図書館の館長にいただきました。いつどのように日本にビールが入ってきたかが書かれています。幕末～明治の歴史小説の好きな方にもオススメです。

ときをためる暮らし（つばた英子・つばたしゅういち）

妻の推薦図書です。つばた修一、英子夫妻の生活が書かれたエッセイです。シンプルで美しく大切なことを教えてくれる本です。読んでいて涙が出ます。私たち夫婦の「教科書」ですね。

武術「奥義」の科学（吉福康郎）

私は12～30歳まで柔道をやりました。この本に書いてあることを真に理解できれば「達人」になれるかも…全てのスポーツをやる方に、力の使い方を理解するためにオススメの一冊です。

面白く生きる！ワザ（近藤勝重）

「面白きこともなき世を面白く」一度の人生、面白く生きたいですよ。そんな面白がり方のコツがたくさん書いてあります。我々マジメ人間は面白がり方もちゃんと勉強しましょう。「楽しいから笑うのではない。笑うから楽しいのだ！」口角アゲて生きましょう。

ジョジョの奇妙な冒険（荒木飛呂彦）

本当にこのマンガで正義の心や勇気、「黄金の精神」を学んだと思っています。特に私が大切にしている言葉を1つ紹介します。『大切なのは「真実に向かおうとする意思」だと思っている 向かおうとする意思さえあれば たとえ今回は犯人が逃げたとしても いつかはたどり着くだろう？ 向かっているわけだからな ……………違うかい？』『59巻今にも落ちてきそうな空の下で』より

↑克典 のオススメ
↓ねね のオススメ

コーヒーと恋愛（獅子文六）

コーヒーを入れる天性の才能を持つベテラン女優と、その周りのコーヒー通で集う会や年下の養われ体質の男性との恋愛コメディ小説。60年前の本ですが難しい感じはなく、さっぱりとした後味が楽しめます。作中のコーヒーのように、何かを探求する事も楽しいけれど、飲みたい時に飲みたいものを講釈垂れずに飲むのもいい。クラフトビールも気負いせず、楽しく飲んでほしいです。

ハリーポッターと呪いの子（J.K.ローリング）

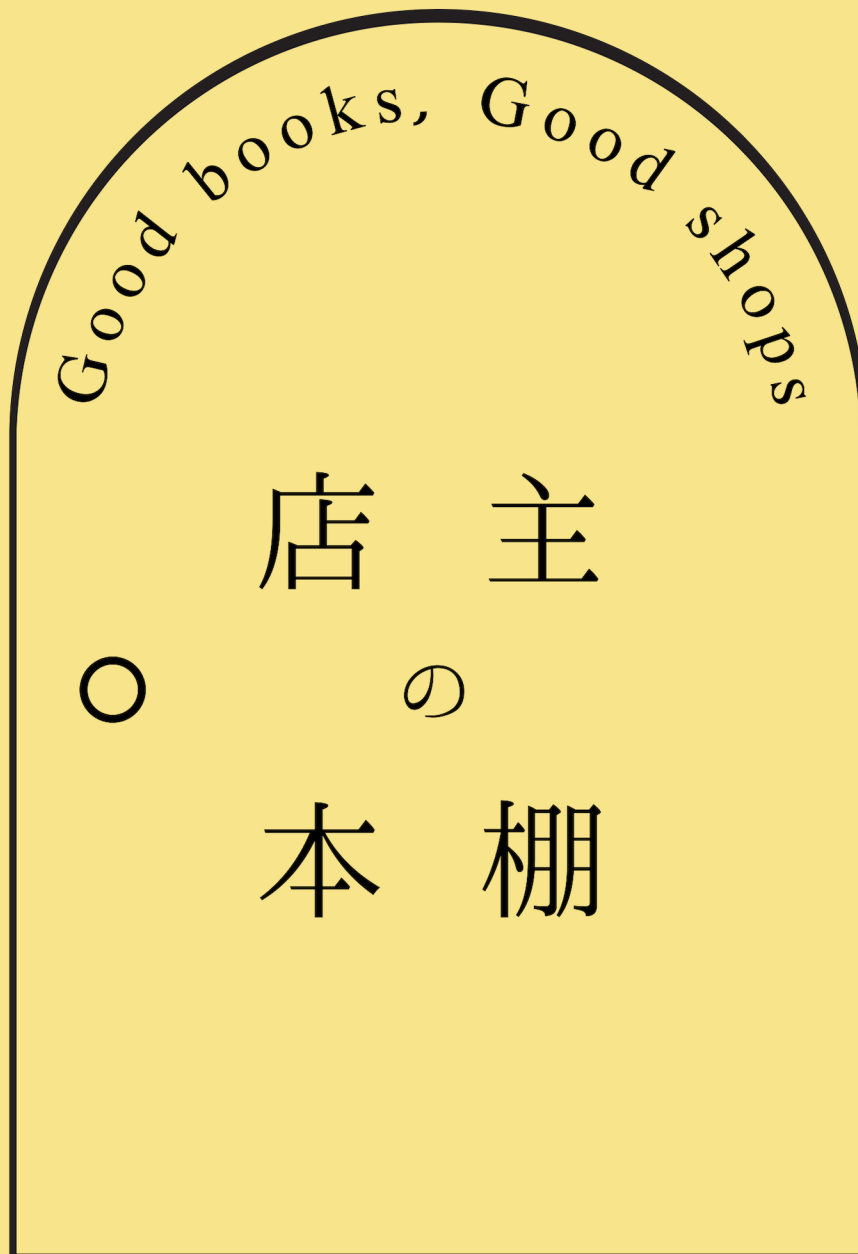
有名な魔法使いハリーポッターとあのマルフォイの息子が親友になり冒険をしていく、ハリポタファンとしては胸が熱いです。大人になったマルフォイがハリーに「君と彼ら(ロン・ハーマイオニー)の仲がうらやましかった。友情が何よりもうらやましかった。」と吐露する場面に、マルフォイは人に弱さを見せられるまでに成長したと嬉しくなりました。

一汁一菜でよいという提案（土井善晴）

お味噌汁を作るのがより楽しくなりました。普段の料理から手の込んだものを作る必要はないよ、という土井先生の優しさを感じる本です。

僕が死ぬまでにしたいこと（平岡陽明）

「結局、人生に必要なのは狂気なんだぁ」作中の還暦サラリーマンのセリフ、私の好きな言葉です。主人公は日本酒で酒呑み遍路をしますが、私たちもビールでやってみたい…！



市川市の店主さんが選んだ本をご紹介します

今月の店主



まるやブルワリー

真間小学校前、創業80年以上の「丸屋文具店」の
3代目店主が始めるクラフトビールの小規模醸造所（ブルワリー）。



ブルワリー情報はこちら